

コロンビア政治情勢（10月分）

1 概要

【内政】

- 3日 新農業・地方開発大臣の就任
- 4日 和平特別司法制度（JEP）に係る新検事長の選出
- 10日 住宅・都市・国土大臣の辞任
- 11日 憲法裁判所による立法令02—2017号の合憲判決
- 23日 コロンビア政府とELN間で和平交渉の第4過程協議開始
- 24日 全国選挙評議会（CNE）がスルアガ前大統領候補選挙事務局の汚職容疑を否認
- 29日 ELNによる先住民首長の殺害
- 大統領支持率

【外交】

- 5日 コロンビア検証ミッションに関する安保理決議第2381号の採択
- 10日 駐コロンビア・アイルランド大使館設立
- 19日 オルギン外相とエスピノサ・エクアドル外務大臣の会談（於：エクアドル）
- 19日 シーヤールトー・ハンガリー外務貿易相の当地訪問
- 23～24日 シピラ・フィンランド首相がコロンビア公式訪問
- 30日 オルギン外相とズドラブカ・ブシッチ（Zdravka BUSIC）クロアチア外務・欧州問題省内同省副大臣の会合
- 29～31日 サントス大統領のカナダ訪問

2 本文

【内政】

1 新農業・地方開発大臣の就任

3日、口蹄疫の問題が収束するまで留任となっていたイラゴリ大臣の辞任及びスルアガ（Juan Guillermo ZULUAGA）新農業・地方開発大臣の任命が行われた。スルアガ新大臣は農業・地方開発省で初めての平野部（東部）出身の大臣。イラゴリ大臣は、国民統一党の幹部に就任する。

2 和平特別司法制度（JEP）に係る新検事長の選出

9日、和平特別司法制度（JEP）に係る新検事長としてサントジョ氏が選出された。同氏は検事として22年間の勤務経験を有する。

3 住宅・都市・国土大臣の辞任

10日、プラダ（Alfonso Prada）大統領府官房長は記者会見を行い、和平プロセスにおける方向性の不一致により、連立与党の一つである急進改革党（CR）所属のプマレホ住宅・都市・国土大臣の辞表受理及び同党との連立解消を発表した。

4 憲法裁判所による立法令02—2017号の合憲判決

11日、憲法裁判所特別法廷において、コロンビア政府とFARCとの間で結ばれた和平合意の法的保護を与える条項を憲法の暫定措置項目に加えることを定めた立法令02—2017号を合憲とする判決が全会一致で下された。これにより、2018年の大統領選挙以降3期の大統領任期（通常の任期で計12年）の間は国の政策として、国際人道法、基本的権利を含む最終合意内容を遵守し履行しなければならない。

5 コロンビア政府とELN間で和平交渉の第4過程協議開始

23日、エクアドルでコロンビア政府とELN間で和平交渉の第4過程協議が開始した。同和平交渉の主要な協議テーマは、和平に対する公約、合意内容の履行、指導者の殺害及び違法作物であった。また、ELN指導者は、同和平交渉と並行してFARCとの意見交換を行った。さらに、24日には、オルギン外相及びリベラ和平高等弁務官がFARC及びELNと会合した。

6 全国選挙評議会（CNE）がスルアガ前大統領候補選挙事務局の汚職容疑を否認

24日、全国選挙評議会（CNE）は、スルアガ前大統領候補選挙事務局がオデブレヒト社の賄賂を受け取ったとの容疑を否認した。スルアガ前大統領候補は早期の政治活動再開を望んでいるが、マルティネス検事総長が、スルアガ前大統領候補選挙事務局が賄賂を受け取った証拠を有していると発言したことから、先行きは不透明である。

7 ELNによる先住民首長の殺害

24日、太平洋岸のチョコ県アルト・バウド（Alto Baudó）市の先住民（カトル・ドゥバサ・アンコソ（Catru Dubaza Ancoso）族）の首長であったイサラマ（Aulio Isarama）氏が武装勢力に身柄を拘束され、殺害された。29日、チョコ県で活動するELNの一派「オマール・ゴメス西部戦争戦線（Frente de Guerra Occidental Omar Gomez）」の指導部は、インターネットによる声明を通じて、イサラマ氏の殺害はELNによる犯行であることを認めた。

8 サントス大統領支持率

10月20日～31日に行われたギャラップ社の世論調査が発表され、サントス大統領の支持率は26%（前回8月29日発表の調査では25%）であった。

【外交】

1 コロンビア検証ミッションに関する安保理決議第2381号の採択（於：ニューヨーク）

5日、安保理第8063回会合が開催され、国連コロンビア検証ミッションに関する決議第2381号（S/RES/2381（2017））が全会一致で採択された。同決議は、国連のコロンビア政府とELN間の相互一時停戦合意の後見人としての参加を承認するものである。

2 駐コロンビア・アイルランド大使館設立

オルギン外相は、コベニー・アイルランド外相と電話会談を行い、アイルランドが、両国関係強化のため、駐コロンビア・アイルランド大使館を設立する決定をした旨発表した。

3 オルギン外相とエスピノサ・エクアドル外相の会談（於：エクアドル）

19日、エクアドル・キトでオルギン外相がエスピノサ・エクアドル外相と会談した。会談のテーマは12月にコロンビアで予定されている大統領会談及び第6回閣僚会議であった。

4 シーヤールトー・ハンガリー外務貿易相の当地訪問

19日、シーヤールトー・ハンガリー外務貿易相が在コロンビア・ハンガリー大使館開館式への出席及び貿易投資促進のため当地を訪問した。翌20日、オルギン外相と外相会談を行ったほか、サントス大統領表敬、グティエレス商工観光相との会談、パルド（Rafael Pardo）ポストコンフリクト担当高等審議官との会合を行った。

5 シピラ・フィンランド首相がコロンビア公式訪問

23～24日、シピラ・フィンランド首相がコロンビア公式訪問及び在コロンビア・フィンランド大使館開館式への出席のため当地を訪問した。サントス大統領は、今次シピラ・フィンランド首相の当地訪問はフィンランド首脳初の訪問であり、教育、観光、貿易及び投資が二国間のキーとなるテーマであると述べた。

6 ズドラブカ・ブシッチ（Zdravka BUSIC）クロアチア外務・欧州問題省内同省副大臣の当地訪問

30日、ズドラブカ・ブシッチ（Zdravka BUSIC）クロアチア外務・欧州問題省内同省副大臣がコロンビアを訪問し、ロンドーニョ次官との会合を行った。同訪問の主な目的は、クロアチアの地雷除去システムに係る技術移転プロジェクトの紹介であった。

7 サントス大統領のカナダ訪問

29～31日、サントス大統領はカナダを訪問した。同訪問には、オルギン外相、グティエレス商工観光大臣、アルセ鉱山・エネルギー大臣が同行した。30日には、サントス大統領とトルドー首相の会談が行われ、カナダのコロンビアに対するポストコンフリクト期における支援、貿易、投資及び観光と多岐に亘るテーマが話し合われた。